



**実施者**

＜教員＞千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科 教授 鎌田 元弘

＜実施メンバー＞千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科 鎌田研究室 4年生 福原 拓真, 千釜 暖  
千葉工業大学大学院 社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻 研究生 ニヤマー スンデリヤ

＜協働パートナー＞  
【行政】南房総市商工観光部観光プロモーション課, 南房総市市民生活部市民課市民協働グループ

**1. 背景・目的**

1993年から正式に運用が始まった道の駅は2022年現在で約1200か所もある。運用開始当初は「休憩」「情報発信」「地域連携」の3つの機能であったのが、現在では「防災」や「地域活動拠点」「子育て支援施設」など多機能化している。全国的に道の駅が増加してきている中、地区の合併により複数の道の駅が集中した地域がある。それぞれの道の駅が特色を出すために多機能化することで、差別化を図っている。また、道の駅に機能を詰め込むことで、道の駅を繁盛させることは可能だが、周辺地域の小売店や住民への影響は不明瞭である。

そこで本研究では、複数の道の駅が集中する地域における個々の道の駅の役割・特徴とそれぞれの道の駅と地域との連携による多機能化の実態と課題を明らかにする。南房総市は2006年に7つの地区が合併して誕生した。それぞれの地区が1駅以上の道の駅を有していて、市内には全国最多8つの道の駅がある。そのため、首都圏からの移動距離や交通の利便性などが同一であること、自治体による道の駅に関する施策なども同一であるため地域特性による差異を比較しやすい。

**2. 活動内容**

**(1) 研究内容**

道の駅周辺の施設との関係性を視覚的に表現するために、道の駅を中心に半径200m, 500m, 1kmにおける各施設をプロットした圏域マップを作成した。図1は、富楽里とみやまを中心に周辺500m, 1kmの圏域マップである。この図より、西の海側に多くの施設が集中しており、緑でプロットした観光施設も多いことが読み取れる。海側に観光施設が集中していることから、海岸沿いに観光資源が多くあり、外部から人を呼ぶ要素となっていると考える。

令和4年12月、南房総市観光プロモーション課に対し、富楽里とみやま、とみうら枇杷倶楽部、ローズマリー公園、白浜野島崎、和田浦WA・O!の各道の駅の戦略と運営形態の確認のため、ヒアリング調査を実施した。運営形態については白浜野島崎以外の4駅は指定管理者制度を導入していることが分かった。また、各道の駅

の戦略について尋ねたところ、市内8駅のうち7駅を市から指定管理者として第三セクターの「株式会社 ちば南房総」が委託されており、市内の道の駅に出荷するびわの加工品のための総合加工工場を有していることが分かった。次に南房総市観光プロモーション課に対し、道の駅と周辺施設の拠点別・圏域別の特徴を把握のため、アンケート調査を実施した(表1)。3つの道の駅について以下の特徴が得られた。富楽里とみやまは、集落や民宿等の観光地とは離れた場所にあるが、距離に関係なく連携がみられた。とみうら枇杷倶楽部は、行政施設、民間の土産屋が近く、それらとの連携、また、交通拠点としての機能が確認できた。和田浦WA・O!は、海と山に囲まれており、道の駅内部の一部は充実しているが、その拡大は限定的であった。

**(2) まとめ**

道の駅を中心に近い距離ほど多くの連携が見られ、距離が遠くなるにつれ連携が少なくなるという仮説であったが、今回の調査より、必ずしも距離の近さに依存せず、各道の駅の地域特性が道の駅と周辺の拠点との連携に大きく関わっていることが明らかとなった(図2参照)。

- 以上の調査研究を踏まえて、南房総市の道の駅について以下のアイデア提案を行った。
- ①「道の駅・総合加工施設」を核としたビジネスセンター(移住者雇用促進・子育て支援)
  - ②「枇杷倶楽部」と「元気倶楽部」を一体化したDX拠点&二拠点居住対応のビジネス拠点
  - ③「富楽里とみやま」と「海側・山側の地域資源活用」を一体化したこどものための体験・学習拠点
  - ④「和田浦WAO」と「市民活動団体 花鯨」が連携した都市の若者と地域住民との交流拠点
  - ⑤「白浜野島崎」と「フローラルホール」「シラハマ校舎」が連携した農業体験(新規営農者育成)拠点
  - ⑥「ローズマリー公園」を姉妹都市「習志野市」との交流拠点として再生

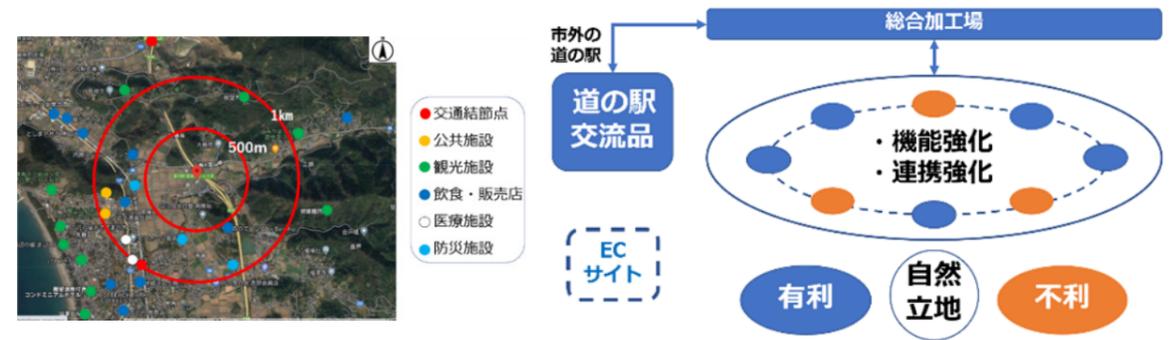


図1 富楽里とみやまを中心とした周辺500m・1kmの圏域マップ

図2 南房総市の道の駅システム

表1 道の駅を中心とした拠点別・圏域別の連携実態(抜粋)

分類	拠点	富楽里とみやま				とみうら枇杷倶楽部			
		内部	200m以内	500m以内	500m以上	内部	200m以内	500m以内	500m以上
市民	交通拠点・通勤拠点	●	-	-	-	○	○	-	-
	行政サービス拠点	○	-	-	○	-	-	-	-
	介護・医療拠点	-	-	-	-	-	-	-	-
	防災拠点	○	-	-	○	○	○	-	-
	子育て支援施設	-	-	-	-	-	-	-	-
	住民交流拠点	○	-	-	●	○	○	-	-
観光	地域情報発信施設	○	-	-	-	○	○	-	-
	観光スポット	●	-	-	○	○	-	-	○
	物産・土産販売施設	-	-	-	-	-	○	-	-
	レジャー体験施設	-	-	-	○	-	-	-	-
移住・雇用	宿泊施設	○	-	-	○	-	○	-	-
	食品加工・配送施設	総合加工工場あり							
	空き家活用施設	-	-	-	-	-	-	-	-
	雇用相談施設	-	-	-	-	-	-	-	-
ビジネス	ビジネス拠点施設	-	-	-	-	-	-	-	-
	DX拠点施設	-	-	-	-	-	-	-	-

**域学協働の工夫!**

- ★南房総市の重要な地域資源である道の駅について、学生視点の発想を重視した。特に県外や他市町の道の駅を学生目線で比較することにより、南房総市の優位性を引き出すことができた。
- ★南房総市の道の駅の優位性と課題についてデータ(道の駅の機能を圏域的で捉える)を用いて示すことができた。今後、観光プロモーション課と市民課が連携した道の駅の多機能化を検討する上での基礎資料となることが期待される。

**3. 成果と課題**

成果としては、地域貢献面では、後期総合計画の重点施策の実現を目指して道の駅を活用した観光プロモーション課と市民課の連携を想定した提案を行うことができた。

教育面では、当学科では公務員志望の学生が多いが、担当課へのヒアリング調査を通じて学生たちが公務員の職務を体感できたことは大きな成果である。課題としては、道の駅を活用した観光プロ

モーション課と市民課を含めた共同研究を目指していたが、時間不足で叶わなかったことであり今後の目標としたい。

**4. 今後の展開**

今各道の駅の立地と特徴を生かした地域拠点としての活用について、各駅の関係機関の実態やニーズをとらえた上で、各駅の方向性を明確にしたい。

\*表彰・マスコミ掲載など  
・特になし